

第 40 回土木計画学研究発表会（秋大会）：2009 年 11 月 21 日～23 日（金沢大学）
セッション討議内容の記録

| | |
|-------------------------------------|--|
| セッション名：交通安全（生活道路） | |
| 日付：11月 21日（土）曜日、セッション時間：16:45～18:15 | |
| 司会者名（所属）：萩原 亨（北海道大学） | |
| 討 議 内 容 | セッション全体： 住宅道路における交差点事故を把握するモデル、事故を減らす対策、なぜ住宅街で事故が起きるのかを議論した。主要な道路での自動車における事故が減る一方、住宅街などのめったに起きないが発生したときには重大な事故となる歩行者事故を減らす努力が必要であることを再認識すると同時に検討の余地が多数ある意識を共有したセッションとなった。 |
| | （発表番号）発表者名（所属）：松尾 幸二郎（豊橋技術科学大学） 交差道路の優先・非優先の違いをモデルに取り込む必要があるとの意見がフロアから出された。交差点部の隅切りが安全に及ぼす効果をこのモデルで評価できないかとの意見が出された。ドライバの特性をモデルに組み込むべきとの意見について議論が交わされた。 |
| | （発表番号）発表者名（所属）：本田 肇（国土技術政策総合研究所） 速度低下をハンプの評価指標としている点について議論となった。速度低下と事故との関係および速度低下と安心感との関係などを示すことが今後必要になるのではとの提案もあった。 ハンプが導入されて 20 年以上たつが、その利用が広がっていない点などをもっと今後検討すべきとの議論があった。 |
| | （発表番号）発表者名（所属）：吉田 雅俊（株オリエンタルコンサルタンツ） 地域 DNA という言葉を提案し、地域を横切る大きな通りでの事故原因を過去からの習慣によるものではないかとしたが、この点について議論が交わされた。地域 DNA の定義のあいまいさや利用者がそれほど過去をひきずるのかどうかなどが焦点となった。 |